

「第 10 回全国一斉 EM 団子・EM 活性液投入」報告

2019 年 7 月 15 日海の日、愛知県にある堀川と三重県の四日市港で EM 団子・EM 活性液投入が行われた。どちらにも比嘉理事長が参加され、地球蘇生を祈願し一心に投入される姿に希望を感じた一日であった。

海の日 EM 投入は、2008 年 8 月 8 日の 8 の重なる日を選んで、マレーシアのパナン州で国際 EM 団子記念日と称し、100 万個の余の EM 団子が投入されたのがきっかけ。州知事を先頭に州環境部を中心に 2 万人余のボランティアが参加した官民一体の EM による環境浄化活動が始まった。「地球を汚した私たちに許して下さい。」「EM さんお願いします。」という想いで投入された EM 団子は、当時 50cm 以上あったヘドロを半年で分解し河川をきれいにしてくれた。この事例を受け 2009 年には国内初で愛知県と三重県で海の日 EM 団子投入が始まり、この活動が全国に広がった。

例年の海の日目標は、EM 団子が 100 万個、EM 活性液が 1000 トンである。このレベルになると、数万 ha 以上の汚れた海を浄化することが出来、三河湾、伊勢湾、東京湾、有明海東南部や諫早湾等々で多大な成果が認められるようになってくる。

愛知県堀川浄化大作戦 2019

昨年までとは打って変わり、今年は釣り大会と EM 団子投げという内容であった。朝、6 時 30 分から会場作りを行い、8 時 30 分～10 時まで釣り教室を行った。参加者は 25 名。釣り大会は 3 名の参加だった。釣果はなかったが、比嘉理事長も釣りの様子を熱心にみられ、「今日は悪条件が重なった。釣れなかったことを良い思い出にしてほしい。街の中での釣りや、泳ぐことが出来る川は東海地方では存在しない。是非堀川で実現してほしい。」と激励を頂いた。

EM 団子投げは約 100 名の参加者があり、比嘉理事長の祝詞を合図に投げ始め、子どもたちの EM 団子投げも非常に熱心であった。

参加者からは、10 年前には堀川で釣り大会が出来るなど考えなかった。釣りをすることを現実のものにする可能性が出てきたことが素晴らしい。これは不可能なことを可能にする快挙ですとの意見が聞かれた。堀川で釣りの企画ができること自体が奇跡的なことであると参加者は実感していた。

伊勢湾・熊野灘浄化大作戦

7/15 (日) と 7/22 (日) に、三重県では北勢 (四日市港) ～中勢 (津なぎさまち) ～南勢 (尾鷲) の 3 か所に分かれて海の日 EM 団子投げと EM 活性液放流を実施した。今年 4 月より準備を始め、合計 60,000 個以上の EM 団子が出来、各所で 20,000 個の EM 団子を投入した。また、EM 団子投入後は、じゃんけんゲームやビンゴゲームを行い、参加された地域の方、小・中学校の生徒の皆さんとのコミュニケーションを深めた。

四日市港では、U-Net 理事 小川敦司氏が中心となり、地元銀行や企業の協力を得てこの日を迎えることができた。比嘉理事長も参加され、参加された皆さんに向け、海の日 EM 団子投入の経緯を説明された後、「普段から EM 生活を送り、EM のイベントに参加し良いことを積み重ね、よりハイレベルな EM 生活を送ってほしい。」とお言葉を頂いた。また、地元企業を代表して朝明精工株式会社・代表取締役社長の廣田正雄氏より、「30 年 EM を使い続けて、EM による事故は一切ない。EM は安心安全なものである。」とご挨拶を頂いた。



堀川での釣りの様子



伊勢湾へ EM 団子を投入



比嘉理事長と参加者